

インターネット検索資料レビュー 英国のストーンヘンジ(巨石環状列石)

最近の調査から 日本と英国の 環状列石 どちらもが
「墓場 転生思想に基づく先祖を祭る祭りの場」との説が有力に



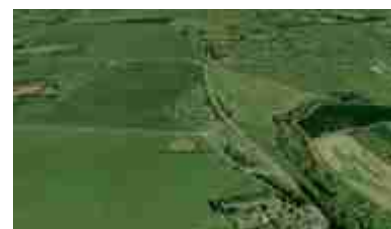
日本のストーンサークルが生まれた縄文中期とほぼ同じ時代にイギリス ソールズベリー平原に有名なストーンヘッジが作られた。このストーンヘンジ周辺発掘調査の新発見から、
ストーンヘンジは祖先を祭る墓場 そしてすぐ近くのダーリントンウォールにはこのストーンサークルを作った人たちの環状集落と祭りの場ウッドヘンジがある
この二つの施設を結んで、生者と死者たちをつなぐ祭りが行われていたとの新しい説が有力に。



ストーンヘンジ



ウッドヘンジ



ダーリントンウォール環状集落

イギリス ソールズベリー平原「ストーンヘンジ」周辺関連遺跡図 [google earth](#) 衛星写真より

英国のソールズベリー平原にある有名な環状列石「ストーンヘンジ」「いつ 誰が 何の為に造ったのか??」
早くから「太陽」の運行・暦との関係などが研究され、先代の天文台説などが広く論じられてきたが、その目的は謎。
そして、日本の環状列石の見方にも大きな影響を与えてきた。

インターネット検索でこのストーンヘンジを調べていて、

最近 ストーンヘンジに埋葬された人骨の調査やこのストーンヘンジから 3 キロほど北東部のダーリントンウォール

で、このストーンヘンジを作った人たちの集落跡が発掘され、隣接するウッドヘンジ（環状木柱列）と共に、
「ダーリントンウォールの集落やウッドヘンジとストーンヘンジとは密接につながっていて、
『生者と使者をつなぐ祭り』が行われていた複合遺跡で、ストーンヘンジはダーリントン
ウォールの集落の先祖たちの墓場である 」

とする説が有力になっているということを知りました。

また、インターネット google earth のソールズベリー平原周辺の衛星写真画像には 「ストーンヘンジ」「ウッドヘンジ」
そしてこれらを造ったと見られる人たちの環状集落「ダーリントン環状集落」がくっきりと見てとれました。

日本の縄文のストーンサークルも当初 数々の説があったが、最近ではほぼ「墓場」であると考えられている。

ユーラシア大陸の東西端で ほぼ同じ時期にほぼ同じような目的で作られた環状列石。そして、どちらもこのストーンサークルで「再生」「転生」の願いを込めた「祭り」を行っていたと見られるという。

縄文のストーンサークル及び縄文人の精神世界を考える上で、この英国ストーンヘンジの新しい見方を知っておく事はきわめて
興味深く有益と思われ、インターネットから 最近のレビューを集めましたので御紹介します。

1. ストーンヘンジ(stonehenge)：(ソールズベリー平原のストーンヘッジ)

英国ロンドンから西に約 200 キロのソールズベリー平野にある欧州で最大規模の巨石記念碑



イギリス ソールズベリー平原にあるストーンヘンジ 紀元前 2500 年から紀元前 2000 年頃作られた

ストーンヘンジ(Stonehenge)は、円陣状に並んだ直立巨石とそれを囲む土塁からなり、ロンドンから西に約 200km のイギリス南部・ソールズベリーから北西に 13km 程に位置する。

現在のイギリス人、アングロ・サクソン人がブリテン島に移住した時にはすでに存在し、紀元前 2500 年から紀元前 2000 年の間に立てられ、それを囲む土塁と堀は紀元前 3100 年頃まで遡るといい、イギリスにアングロサクソン・ゲルマン人が入ってくる前のケルトの祖先の遺産と考えられる。日本のストーンサークルは縄文中期の4500年前頃から縄文後期3500年頃に作られ、英国ストーンヘンジとほぼ同時期である。

また、イギリスにはこのほか 各地にストーンサークルや巨石遺構が残っており、これらの巨石に謎の渦巻き文様が残されている。時代はずっと下るが、ケルトの渦巻き文様として数々の遺物にこの渦巻き文様が受継がれてきたことも興味深い。

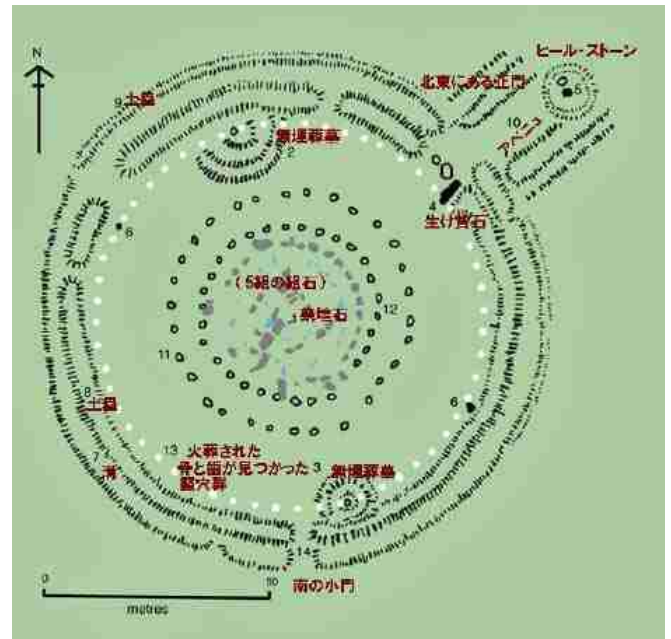


ストーンヘンジの遺構 想像図

馬蹄形に配置された高さ 7m ほどの巨大な門の形の組石(トリリトン)5組を中心に、直径約 100m の円形に高さ 4-5m の 30 個の立石(メンヒル)が配置されている。

夏至の日にヒール・ストーンと呼ばれる高さ6mの玄武岩と、中心にある祭壇石を結ぶ直線上に太陽が昇ることから、設計者には天文学の高い知識があったのではないかと考えられている。
また、当時としては高度な技術が使われており、倒れないよう安定させるため石と石の間には凹凸がある。

遺跡の目的については、太陽崇拝の祭祀場、古代の天文台、ケルト民族のドルイド教徒の礼拝堂など、さまざまな説が唱えられているが、未だ結論はでていない。



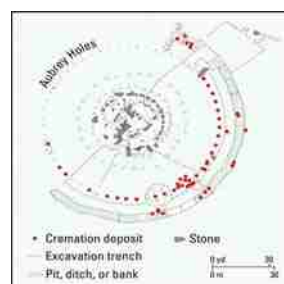
中心部の組石



ヒールストーンとサークルの中心から北東にあるヒールストーンを見る 外側に並ぶサーセン石と内側背の低いブルーストーン

1.1. 最近ストーンヘンジで見つかった骨の放射性炭素年代測定から 埋葬地だったことが明らかに

このストーンヘンジの土塁で円形に囲まれたすぐ内側には土塁に沿って、数多くの竪穴群があり、ここで見つかった骨を最近、放射性炭素年代測定法で測定したところ、ストーンヘンジの建造が始まったのと同様時期である紀元前 3000 年ほど前のものであることが判明。また、同じ竪穴群の中から他にも骨が見つかったことから、建造物の完成



後も紀元前 2500 年頃まで埋葬場所として使用されていたと考えられるに至った。

- 従来は、ストーンヘンジが埋葬地だったのは紀元前 2700～2600 年ごろの期間だけだと考えられてきたが、火葬された 3 人の遺骨に年代測定から、それらの遺骨が 500 年間にわたる長い年代にわたっていることが判明した。
- 今回の年代測定の対象となったのは 1950 年代に発掘された遺骨だが、最も古い遺骨は火葬された骨と歯の集まりで、オーブリーホールと呼ばれる 56 個の竪穴の 1 つから発掘されたもの。
- 2 番目に古い遺骨はストーンヘンジを囲む溝の中から見つかったもので、紀元前 2930～2870 年ごろに埋葬された大人の遺骨だという。溝の北側から出土した 3 番目の遺骨は、20 代の女性のものと特定された。
年代は紀元前 2570～2340 年ごろで、サラセン石という巨大な砂岩のブロックが立てられた時期に相当する。

ストーンヘンジ完成後も紀元前 2500 年頃まで 約 500 年間にわたる長い年代にわたって埋葬場所として使用されてきたことが判明し、ストーンヘンジは埋葬所であったことが明らかになった。ストーンヘンジは上流階級、おそらく古代の王族の埋葬場所として使われ、ストーンヘンジに火葬で埋葬された人は 240 人にのぼると考えられている。

1.2. ストーンヘンジ周辺 ストーンヘンジ関連遺構が意味するもの

ストーンヘンジと北東部のダーリントンウォールのウッドサークルを結ぶ道の出現 両遺跡を結ぶ祭り

【 ストーンヘンジ周辺は死者の領域 巨石はその象徴 】

- ストーンヘンジ周辺はストーンヘンジばかりでなく、周辺に数多くの墓 が点在し、初期にはごくわずかな人しか埋葬されていなかったが、その後 王族の子孫が増えるにつれて、埋葬地が一般化していった。
(次ページのストーンヘンジ周辺地域図の赤印と黒印は墓穴である)

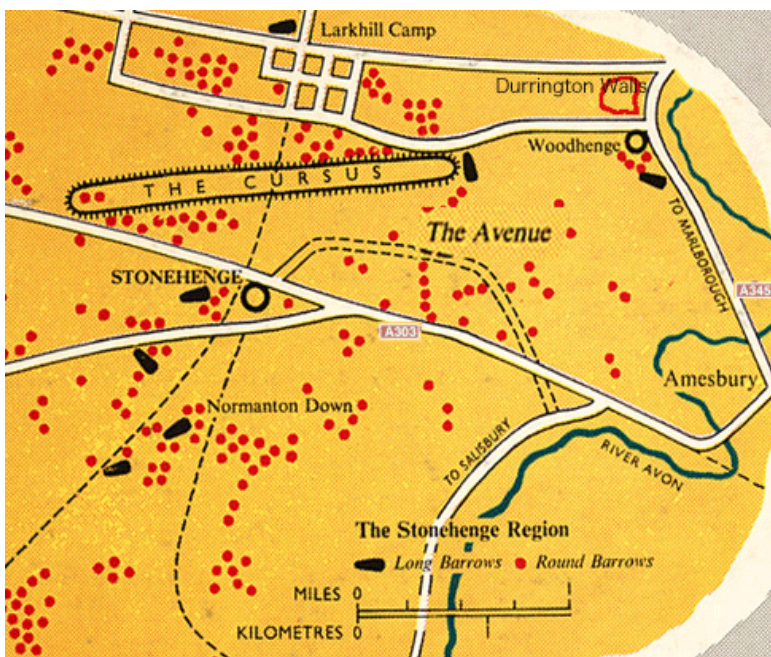
【 ダーリントンウォール周辺は生者の領域 木はその象徴 】

ストーンヘンジの北にあるこの二条の溝は 死者の領域と生者の領域を分ける溝だったのか……

- ストーンヘンジのカーサス(ストーンヘンジを囲む全長 2 マイル(約 3.2km)ほどの 2 本の平行な溝)が、紀元前 3630 年～3375 年にさかのぼることが判明した。この 2 条の溝の北側 ダーリントン周辺には墓がない。

【 転生思想に基ずく死者と生者を繋ぐ祭りの存在が浮かび上がってきた 】

- エイボン川の岸から ストーンヘンジの入口へ至る「The Avenue・道」が見ついている。
ウッドヘンジ・ダーリントンウォール環状集落からエイボン川への道が見つかっており、この二つの遺跡がエイボン川を介してつながる複合遺跡遺構と考えられている。



ストーンヘンジ周辺 遺構分布図

1. ストーンヘンジと川をつなぐアベニュー
(ダーリントンウォールのウッドサークル → エイボン川 → アベニュー → ストーンサークルをつなぐ祭礼の道)
2. 赤印 黒印で示された墓穴群



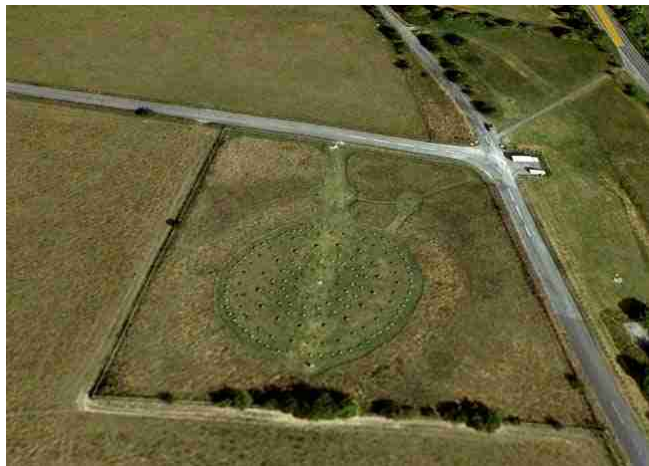
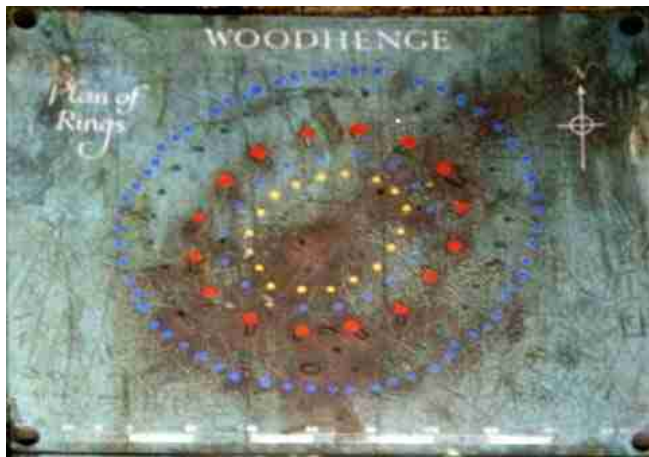
Google earth 衛星写真でみえるストーンヘンジ アベニュー



ストーンヘンジの北すぐ近くにある
Cursus Barrows と呼ばれる円墳のグループ
周辺には円形のマウンド状の墳墓(Round Barrow)も数
多く残っており、当時の有力者の墓と見られている

2. ストーンヘンジから北東約3km エーボン川の岸にある「ウッドヘンジ・環状木柱列」
ストーンヘンジを作った人たちが暮らすダーリントンウォール環状集落隣接





ウッドヘンジ(木のヘンジ)の名前の由来は、元来ここにあった構造物が、ストーンヘンジに類似した木製の構造物だった事による。(現在 木柱のあった位置に背の低いコンクリート製の円柱が立ち並んでいる。)

直径約50メートル 中央に中心石と思われる小さな石の塊があり、合計157本の木柱が6つの環状を形成している。

このウッドヘンジは、青銅時代(紀元前 4 世紀～紀元前 1 世紀)に恐らく、宗教的な理由でここに建設されたと考えられている。

現在のコンクリートの標識は、オリジナルの木柱の位置を示しています。また、案内板の平面図では、6 重の同心円を異なる色で示している。

このリングは最外径約50メートルの楕円形で、長軸方向(半径の最も長くなる方向)が、夏至の日出の方角を示している。

このウッドヘンジの外側には、土手とその内側に堀があり、北東の方角からの土手道がこのウッドヘンジへの入り口となっている。

平面図中、黒で示されているのは、これらの円に含まれない赤いコンクリート柱と中心近くの埋葬地である。

(ウッドヘンジ案内板より)

一番内側環の柱数 :12 2の環 : 18 3の環 :18

4の環 : 1 5の環 : 33 一番外側環の柱数 :75

合計 157本もの木柱が立っていたという。

3. ダーリントンウォール環状集落周辺の発掘による新発見

2006年9月にストーンヘンジの近くのダーリントンウォールで、先史時代の大規模な村落が発掘され、その何百という住居跡は、不思議なことに特定の季節に限定された村であることを示した。また、この村落の木柱サークルと巨大な土塁が、道路、川、祭儀を通じてストーンヘンジにつながっていたという新しい証拠も発見され、この村落はストーンヘンジ遺跡の建造者が住んでいたとみられ、村自体が大がかりな「祝祭」を催すための重要な儀式の場だったとの見方が発表された。



住居からは、石器、飾りピンのかけら、がれきそして、ベッドやタンスの形跡、楕円形の暖炉跡も見つかった。

また、先史時代のゴミ捨て場は、豚や牛の骨、壊れた陶器など、石器時代の祝宴の証拠にあふれており、出土した先史時代の牛の化石を分析した結果、古代のストーンヘンジでは、遠方の巡礼者が家畜を連れて集まり祝宴を開いていたことが判明したという。

【これらの遺物解析で明らかになったこと】

1. 「まだ断片的なものだが、陶器の種類が住居跡の区域ごとに異なっているように思われる」と。
2. 牛の歯のエナメル質に残っていたストロンチウム原子の同位体を分析して、牛が生息していた地域を検討。
 1. ストーンヘンジ周辺を含めイングランド南部は石灰岩を大量に含む白亜質の土壌が特徴的であるが、調査の結果、1頭を除いて、この土壌範囲以外の土地で飼育されていたことがわかった。そして、この牛たちは、比較的古い岩盤上に形成された土壌 ウェールズやスコットランドで飼育されていた

た可能性が高く、ストーンヘンジ遺跡自体にウェールズ南西部から運ばれてきた青石が使われていることから、ウェールズから運ばれてきたと考えられる。

2. また、豚の歯の分析からはほぼ生後9ヶ月の子豚が使われ、冬至の祭りがあったのでは・・・と。

これらの発見化から、この集落はある季節に限って人が住むために造られ巡礼者が冬至と夏至を祝うためにこの地に生け贄となる家畜とともにこの地を訪れたのだという。

そして、ストーンヘンジは死者をまつるために造られたと考えられ、ダーリントンウォールに近接する木で造られたウッドヘンジとストーンヘンジを結ぶ祭りの存在が浮かび上がってきた。

【インターネット資料出でつけたダーリントン・ウォール遺跡の発掘写真】



ストーンヘンジ世界遺産地区にあるダーリントン・ウォール遺跡で作業をする考古学者たち。

写真の前面には、かすかに四角形の形をした小さな家の跡があり、炉の跡が中心に見える。

写真後方に穴が線状にいくつも並んでいるのは、かつて住居を囲んでいたもの。この住居跡は、2006年に発見された他の多数の住居跡からは離れた場所にあり、おそらく聖職者が利用していたものと思われる。



ダーリントン・ウォール遺跡にある新石器時代の住居で、土の床を考古学者らが掘り起こした。これらの住居には、ストーンヘンジを造った人たちが居住していた。写真右上の住居跡は、道の跡を横切っていて、火打ち石や折れた骨、陶器のかけらなどが残っていた。

この道は、ダーリントン・ウォール遺跡で祭りを行った人たちが利用したと考えられている。彼らは葬送の儀式の最後の段階で、死者の遺骨をエーボン川に流した。この調査は、ナショナル ジオグラフィック協会が支援している。



「ストーンヘンジ・リバーサイド・プロジェクト」調査で発見された新石器時代の牛の骨。祭りの後の残骸と見られる。

ストーンヘンジ世界遺産地域にあるダーリントン・ウォール遺跡で大量に発見された動物の骨は、4600年ほど前にここで祭りを行った人たちが残したものだ。

4 まとめに代えて

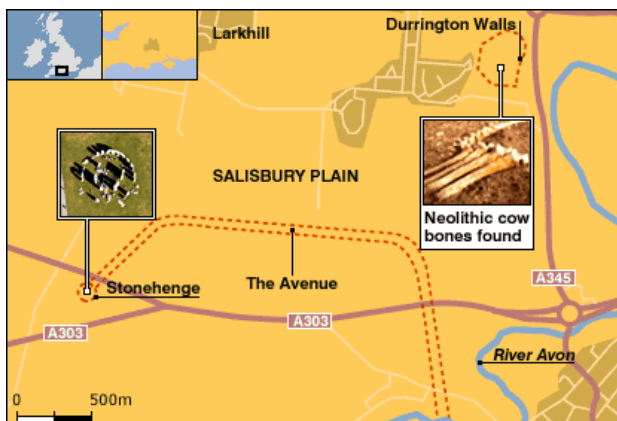
〔インターネット資料転記〕

ストーンヘンジ・ダーリントン ウォール環状集落遺跡 レビュー

紀元前 2600～2500 年頃の大規模な住居跡を発掘 ストーンヘンジを造った人々の住居跡を発見

2007年1月31日

<http://nng.nikkeibp.co.jp/nng/news/20070131/gallery/index.shtml> より



英国イングランドのソールズベリー平原にあるストーンヘンジ世界遺産地域のダーリントン・ウォールで、ナショナル ジオグラフィック協会が支援する発掘調査により、数百人規模が居住していたとみられる古代住居の跡が発掘されました。

調査を行った考古学者は、ストーンヘンジを造った人々の住居跡とみています。

英国シェフィールド大学の考古学者マイク・パーカー・ピアソンは「磁気測定調査を行ったところ、調査を行った地域全体に住居が建ち並び、数多くの囲炉裏を確認しました。住居の床からは、箱形のベッドや、木製ドレッサーか食器棚の跡が発掘されています」と語っています。

これらの住居は、放射性炭素測定の結果、ストーンヘンジ遺跡が建造されたのと同じ紀元前 2600～2500 年のものでした。このことから、ダーリントン・ウォールで発掘された住居に住んでいた人たちがストーンヘンジ建造に関わっていたと結論づけました。

この住居跡は、これまで英国のブリテン島で見つかった新石器時代の住居では最大で、スコットランド沖にあるオークニー諸島では同様の住居跡がいくつか見つかっています。

今回の発見によりストーンヘンジは単独で造られたのではなく、葬送の儀式に使われたより大きな宗教施設の一部だったという学説が裏付けられたと、パーカー・ピアソンは語っています。

ストーンヘンジ複合遺跡を構成するダーリントン・ウォール遺跡は、現在見つかっているなかでは最大の環状遺跡で、周辺は土塁に囲まれていて、内側には堀がありました。これらは宗教的な祭礼に用いられたとみられています。

直径およそ 420 メートルで、同心円状に巨大な木の柱が立っています。ダーリントン・ウォール遺跡は、ストーンヘンジから 3 キロ程度の場所に位置していて、これまで狭い範囲しか調査が行われていませんでした。

2006 年 9 月に、ナショナル ジオグラフィックの支援で行われた「ストーンヘンジ・リバーサイド・プロジェクト」という調査で、英国のパーカー・ピアソンら 6 人の考古学者で構成される調査隊は 8 カ所の住居跡を発掘しました。

6カ所の床面は良い状態で保存されています。それぞれの住居はおよそ5メートル四方で、床は粘土でつくられ、中心部には囲炉裏がありました。床や杭穴、溝からは 4600 年前に使われていた木製の家具の一部が見つかっています。

ダーリントン・ウォールの環状遺跡の西側では、調査隊のメンバーである英マンチェスター大学のジュリアン・トーマスが別の新石器時代の住居を 2 つ発見しました。いずれも木の柱と溝で囲まれていて、少なくともあと 3 つの同様の構造物が同じ地域にはあるとみられています。これらの住居は、ほかの住居から離れた場所にあり、共同体のリーダー的な存在だった人物が住んでいた可能性があります。

トーマスは、こうした宗教的儀式を執り行う人物は、共同体から離れて住んでいたと考えています。あるいは、これらの住居からはゴミ類が全くと言っていいほど見つからないことから、宗教儀式に使われた神殿か祭儀のための建物で、内部の火を絶やさないようにするためだけに人がいて、居住はしていなかったのかもしれない。

残りの住居は、幅約 2.7 メートル、長さ 170 メートルほどもある立派な石置の道の両側にまとまっていました。

これらの住居は、調査隊が 2005 年に発見して、2006 年に詳細な発掘を行いました。道は背の高い木の柱で囲まれた環状遺跡とエーボン川をつなぐもので、近くのストーンヘンジにも同様の道があり、人々が川を渡って二つの建造物の間を行き来したことを示しています。道の発見は、調査チームにとってストーンヘンジの遺跡群全体の目的を解明することに役立ちそうです。

パーカー・ピアソンは、ダーリントン・ウォール遺跡とストーンヘンジ遺跡との間には極めて密接な関係があったと考えています。

ダーリントン・ウォール遺跡は生命を祝福するためのもので、死者を川に流して死後の世界に送り出す役割をもっていました。

一方でストーンヘンジ遺跡は、死者を記憶にとどめたり、葬儀を行うために造られました。

18 世紀に発見されたストーンヘンジ遺跡にある道は、夏至の日の出の方向と一直線をなしており、ダーリントン・ウォール遺跡の道は夏至の日没の方向に向かっています。同様に、ダーリントン・ウォールの環状遺跡は冬至の日の出の方向を示しており、ストーンヘンジ遺跡の巨大な門の形をした 5 組の組石(トリリトン)は冬至の日没の方向を示しています。

ダーリントン・ウォール遺跡には、新石器時代にあらゆる地域の人々が集まり、大がかりな冬至の祭りが行われて、大量の食料を消費したと、パーカー・ピアソンは考えています。当時の英国のほかの地域で発見されたものとは比べものにならないほど大量の動物の骨や陶器が見つかっていることが、その証拠です。

この場所で見つかったブタの歯を調べたところ、生後9カ月だったことから祭儀は冬至に行われたと思われます。

パーカー・ピアソンによれば、祭儀の後に人々は道を通してエーボン川に向かい、死者をストーンヘンジ遺跡に向けて流しました。それから人々はストーンヘンジの道を通して巨石記念碑に向かい、数人の死者を選んで火葬にして埋葬したのです。ストーンヘンジ遺跡は、先祖を敬うこれらの人々にとって、死者の霊と交信する場所だったのです。

ダーリントン・ウォール遺跡の道は川の向こうにある崖に続いています。

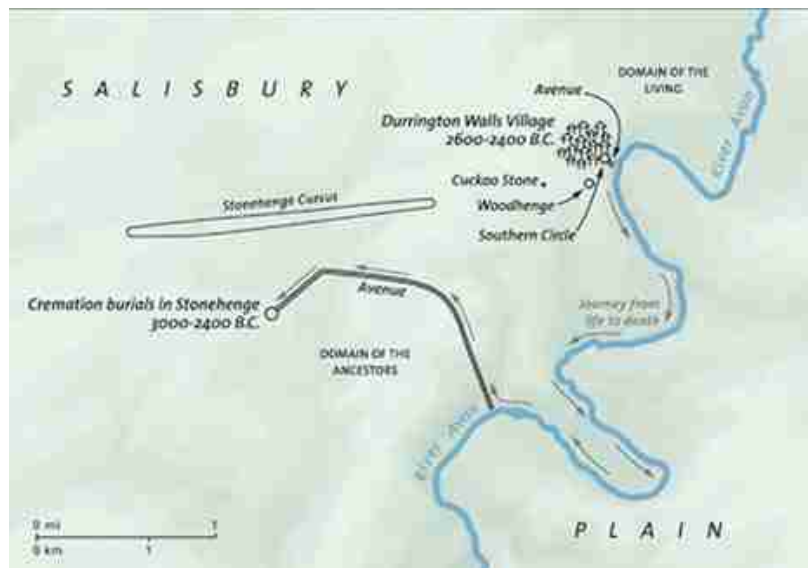
「彼らは人の灰や骨、そして死体そのものも水に投げ入れたのでしょ。これはほかの川でも見られる風習です」とパーカー・ピアソンは言います。

パーカー・ピアソンとトーマスは、ストーンヘンジは祖先をまつための記念碑として石で造られましたが、ダーリントン・ウォール遺跡は木造だったと見ています。

ダーリントン・ウォール遺跡は「住むための場所でした」とパーカー・ピアソンは言います。

それに対して、石造のストーンヘンジ遺跡は、人が住むためではなく、その当時のブリテン島で最大の墓所だったのです。

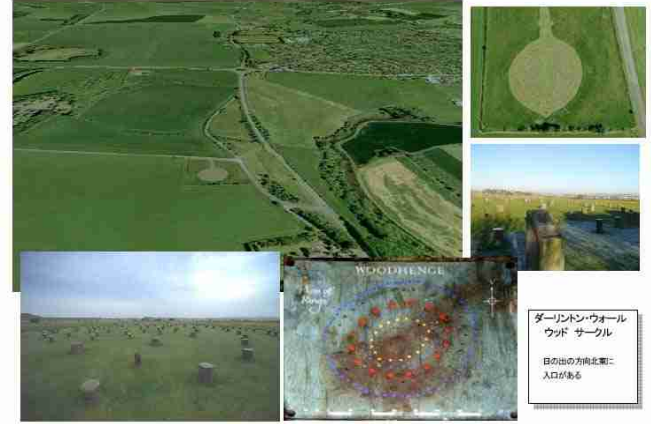
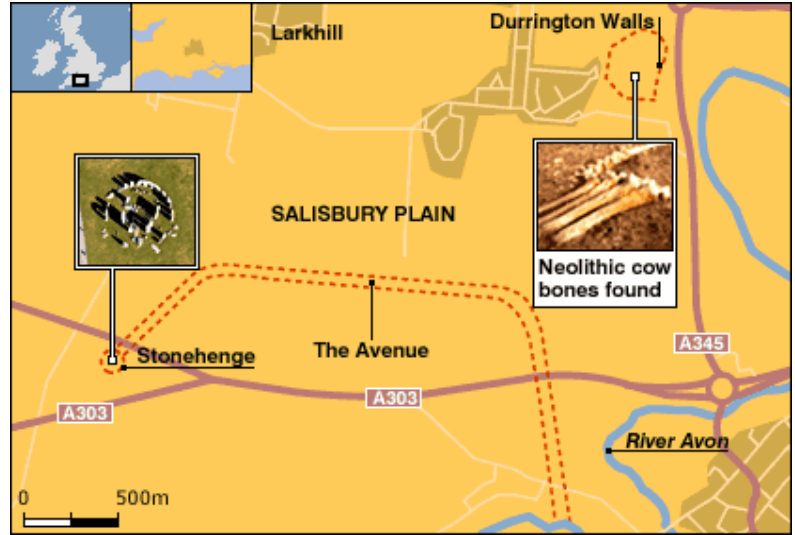
ストーンヘンジ遺跡では 250 件の火葬が行われたと考えられています。



ストーンヘンジ・リバーサイド・プロジェクトは、マイク・パーカー・ピアソン(英シェフィールド大学)、ジュリアン・トーマス(英マンチェスター大学)、ジョシュア・ポラード(英ブリストル大学)、コリン・リチャーズ(英マンチェスター大学)クリス・ティレイ(英ロンドン・カレッジ)、ケイト・ウェルハム(英ボーンマス大学)の6人が中心となって行われました。

このプロジェクトは、ナショナル ジオグラフィック協会と芸術人類調査協議会が資金を援助し、英国遺産、ウェセックス考古学会の支援により行われています。





ダーリントンウォール
ウッドサークル
目の出の方向北側に
入口がある

【 インターネット検索で得たベース資料 】

【 参考 1. 】 フォトレポート:発掘で明らかになったストーンヘンジの謎 2008/06/05 07:00
<http://japan.cnet.com/news/biz/story/0,2000056020,20374428-4,00.htm>

【 参考 2. 】 メール マガジン マガジン「NATIONAL GEOGRAPHIC」
 巨石遺跡ストーンヘンジは埋葬地だった? http://www.nationalgeographic.co.jp/news/news_article.php?file_id=62359357&expand
 ストーンヘンジに集い祝宴を開く古代人 http://www.nationalgeographic.co.jp/news/news_article_enlarge.php?file_id=76272775
 ストーンヘンジに繋がる集落跡を発見 http://www.nationalgeographic.co.jp/news/news_article.php?file_id=90018

【 参考 3. 】
 紀元前 2600~2500 年頃の大規模な住居跡を発掘 ストーンヘンジを造った人々の住居跡を発見
<http://nng.nikkeibp.co.jp/nng/news/20070131/gallery/index.shtml>

【 参考 4 】 インターネット 「巨石文化」 ストーンヘンジ
<http://www.lithos-graphics.com/stonecircle/englandcircle/stonehenge1.html>